

1

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● 地球温暖化が進行し、極端な異常気象による災害が頻発すれば、支払保険金の増加、それに伴う保険料の上昇、といった影響を及ぼしかねない。● こうした事態を回避し、保険を安定して提供するという、保険会社の社会的使命を果たすために、まずは率先して、高い目標を掲げ、自らのCO2排出を削減し、そしてバリューチェーン全体での、環境負荷低減に取り組んでいる。
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● CSRレポートなどで算定結果を公開している他、社員の環境意識の向上に利用。
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● サプライチェーン排出量の算定を行うことで、排出量削減に対するPDCAをタイムリーに行うことができ、CO2とコストの両方の取組みが可能。
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● 本社関係各部から算定に必要な元データの提供を受け、事務局で算定。

	各社の考え方
□ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none">● サプライチェーンを含む排出量をISO14001の削減目標に掲げ、ISO14001認証の維持・取得の取組みを通じ、サプライチェーンの排出量の削減に取り組んでいる。
□ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none">● サプライチェーンの排出量は選択する算定方法によって異なるため、単純な他社比較が難しい。
□ その他(任意)	<ul style="list-style-type: none">● 算定の妥当性・透明性を担保するため、第三者検証を受検している。

*「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等算定のための排出原単位データベース」

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1 「購入した製品・サービス」	● 上下水道の使用量	● 地球温暖化対策報告書制度 (東京都)提供値
	● OA用紙、印刷物の購入金額	● 3EID
カテゴリ3 「Scope1,2に含まれない 燃料及びエネルギー活動」	● 電力、熱(蒸気・温水・冷水)の使用量	● 原単位DB*(電気・熱使用量 当たりの排出原単位)
カテゴリ4 「輸送、配送(上流)」	● 郵便、宅配便・社内便の支払金額	● 3EID
カテゴリ5 「事業から出る廃棄物」	● 自社ビルからの廃棄物排出量重量	● 原単位DB*
	● その他の廃棄物処理金額	● 3EID
カテゴリ6「出張」	● 国内の営業移動・出張・赴任における支払金額・ 推定移動距離	● 原単位DB* (タクシー・ハイヤー・鉄道・ バス・新幹線・航空機) ● 交通エネルギー要覧等によ り作成した原単位(船舶) ● 3EID(宿泊)
	● 海外の出張・赴任における航空機移動の出発地・到着地、 宿泊日数	● ICAO(国際民間航空機関) (航空機) ● 原単位DB*(宿泊)
カテゴリ7 「雇用者の通勤」	● 推定移動距離	● カーボンオフセットガイドライ ン提供値(鉄道、マイカー) ● 交通エコモ財団提供値 (バス)